

～住学協同への実験～

筑豊ゼミ研究会報 9月号

NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター・筑豊ゼミ研究会報第3号 2013年9月10日

学生によるビオトープ研究会誕生！ 代表：松田耕聖さん(生物環境化学科4年)

定義からすれば人間を含む生き物が住む場所のすべてがビオトープですが、人間は自然を思い通りに改変し、特定の生き物を排除し、特定の生き物を確保し、特定の物質を採取して生きています。人間は近代工業の生まれる前には、自然に対して控えめに生きていましたが、今や驚異的な科学技術力でもって多大のエネルギーを使い、利潤追求のため急激に自然を破壊し、大量に薬剤を使い、大量に生き物を絶滅の危機に追いやってきました。

このような環境破壊が人間の利益にならないという考えが、このビオトープという考えを生み出してきました。本研究会では、身のまわりのすべての生き物の生きる意味を考え、家屋内外、体の内外での彼らの生息を許容し、うまくやり取りできることこそが、これからのビオトープには必要ではないかと考え活動したいと考えています。

活動方針

- ・ ビオトープにはどのようなものがあるかの調査
- ・ ビオトープの見学会(甘木市のキリンビール工場など)
- ・ ビオトープの設計、モデルの作成

9月例会は 9月18日(水)午後7時～9時

受付(昭和レトロ研究会)は1201教室(一番奥の教室)で行います。インフォメーション(連絡事項)等を、最初に行いますので、受付後午後7時迄1201教室に待機してください。

市民遺産研究会(1201教室):細分化した取り組みへの挑戦

「遠賀川」・「長崎街道」は水陸の要所として賑わっていた様に飯塚宿をはじめとする沿線の各地には往時をしのばせる町並みと共に異文化の香りをとどめる様々な歴史や自然そして文化がある。其々個人の調査を持ち寄って検討しながらひとつの内容を完成させてゆく。

独楽研究会(1202教室):

- 松崎先生の仮説に基づき重たい独楽でテストする。
- 新しい独楽との回転数と低減率と回る時間を調べる。
- 独楽のバランスを調べる(針金の独楽の製作)

昭和レトロ研究会(1203教室):

8月例会で出た提案、風景、建造物に限らず商店の店舗内の風景、生活封軒、商品、物品等について、各自が心にとめた昭和の風景をもちより、データを収集していきます。

筑豊ゼミ・研究会報告 (締切:9月3日運営委員会)

市民遺産研究会 8月例会報告

市民遺産研究会長 白神 精一

長崎街道研究班と遠賀川研究班に分け長弘先生、菊川先生を顧問に 1)筑豊にしかないもの 2)春夏秋冬の季節との関連(自然美、嗜好、祭事など)を調べてゆくこととした。

飯塚を中心として長崎街道、遠賀川は互いに深く郷土の歴史を刻んできている。産業遺産、自然遺産、文化遺産、市民遺産とのかかわりを焦点を絞り次のような研究することにしました。

長崎街道研究班:小倉より長崎まで57里(約 223.8km)の道のうち、筑前国内を対象とし、今期は特に木屋瀬～飯塚間の宿ではない街道沿線の直方、小竹の地について担当を決めて、調べてゆくこととした。又、黒田官兵衛・長政にまつわる、知られていないゆかりの地、エピソード等を併せて調べてゆくことにした。

遠賀川研究班:遠賀川ウォーキングをテーマに季節の花や名所旧跡、あるいは祭りを組み合わせた4～6kmのウォーキングコースを提案する。9月例会では、川崎町安宅の「彼岸花」の他、遠賀川源流点や嘉麻市「碓井」・「岩崎」の彼岸花植栽地を組み合わせたコースを検討すると共に、現地調査を計画する。10月の嘉麻市の一夜城祭り(益富城址)も併せて検討する。

独楽研究会 8月例会報告

独楽研究会長 笹原 泰史

近畿大学松崎先生の仮説に基づき、初回転数を1分後の回転数で回すと、回る時間も1分減ることがわかった。このデーターを基に、独楽を長く回すためには、初回転数が最も重要である。大名独楽を別の人が回したデーターをとって回転速度と時間の関係を調べる。



大名独楽

牛乳瓶のふたの独楽

今の独楽よりもっと良く回る新しい独楽(17分回る)にてデーターを取る。

牛乳瓶のふたで独楽を作る(心棒を付けるバランスの難しさを知る)

昭和レトロ研究会 8月例会報告

昭和レトロ研究会長 末田 明

7月例会で出た、建造物・風景等にこだわらない昭和さがしの具体例として、商店の店舗内の風景や生活風景、あるいは商品・物品などはどうだろうとの意見が出された。

下記写真は橋梁を渡る筑豊電鉄、鉄道橋および沈下橋(末田明7月11日撮影)



大名独楽

日本の独楽資料館館長 花元 克巳

おこたれば ころぶと弟子え 師のさとし

人も辛抱 こまも心棒

日本人ほど「独楽」に親しみ、遊んだ民族はいない。

独楽の歴史は古く、明治、大正、昭和初期と木地師によって、その風俗、気候風習を基に独楽作りの技法が異なる。ロクロ技術が日本で一番早く発明され普及したのが中日本、小田原地方で冬の長いこの地方では気候にあわせて、捻り独楽、手回し独楽が盛んに作られた。

大名独楽の作成では、各地で活躍している木地師に相撲独楽の製作を依頼した。十五年の歳月が過ぎたが独楽作りの過程の段階で一番苦勞するのが材料集めでした、年輪は南側の中が広く北側は細い、年輪の外側は水分を含んで重く、中心に近いほど軽くなる、こうした木を水平に切ればどこが重い、軽いかはよくわかってバランスも取り易い、これを縦や横に挽いて最終的には一センチ角の角材にする、この時の(勘)と(バランス)が最も重要である。独楽が何故倒れないかという疑問に対して誤った説明がなされることがある。「回っている独楽」の各部には遠心力が働く。遠心力は外向きで四方八方から引っ張っていることになり独楽は倒れない。独楽にした時によく回る木と回らない木がある、それは独楽を作って初めてわかる。何十回も作る中(勘)で見分ける、その説明は難しい、材料選びと独楽の遠心力を調製するのも勘が一番の頼りとなる。



実際に回して見ると重心の移動が起こる、物理学的にその角度が三十五度～四十度と云う説もあるがこれも当てにならない。木の材質や本来のバランスによって全然違ってくる床との摩擦の状態の変化や周りの空気の影響が複雑にからまってくるので話は簡単ではない。完璧な独楽を作るには時間とお金をかけて研究試作を続けるしかない。

しかし木地師(職人)は常に本来の商売で注文と納期に追われ中々こちらの想いは通じない、過去に何回も失敗独楽に出会い痛い思いをした、しかし、百年以上も前の文献資料から木地師の技術を知り多くのことを学び長い伝統を持つ江戸独楽「大名独楽」に挑戦することで自己を磨き、楽しみ、風流の世界であり、人生道場であり、独楽と共に生きる、そんな飯塚は独楽の匠の町でありたい。

相撲独楽の心得

大名独楽の勝負は1回のひねりで16分以上回すので失敗は許されない、如何に正しく、美しく

回すのかコツである。力強く上手に回すことで独楽の回る力を100%以上発揮することが可能である。

その為には練習を積み重ね名実共に勝負師(力士)として秘伝秘術を尽くして独楽勝負を続けたい。



物・心・技

いくら精巧な独楽を持っていても技術がまずく粗雑に独楽を扱くと傷つき回りが悪くなる。自分の独楽は大切に保存する。木台に鉄芯を通しただけの独楽とは格段の違いがある。物・心・技が融合し躍動する大名独楽は三位一体の気合いと純粹さが光彩を生み出す。

情報交差点

筑豊ゼミ: <http://www.chikuzemi.com/>

e-mail: chair@chikuzemi.com(運営委員長)

:sec@chikuzemi.com(事務局長)

筑豊地域づくりセンター: <http://www.chikuhou-jugaku.org/>

筑豊での話題やイベント情報を掲載します。皆様からの情報をお待ちしております。予告だけでなく結果報告もお願いします。なお、既にホームページ上で告知されている情報については、筑豊ゼミホームページ(<http://www.chikuzemi.com/>)のイベントカレンダーをご覧ください。

遠賀川流域に 深紅のにぎわい を見に行きませんか？

ここ数年、遠賀川流域各地の河川敷にヒガンバナが数万球植えられています。

見ごろは、お彼岸のころ **新しいヒガンバナの名所を見に行きませんか！** ()内は植栽年

- ・嘉麻市: 碓井光代新橋下流付近(24年)、岩崎稲築スポーツクラブ付近(25年)
- ・桂川町: 土師浄水場下流(桂川町大字土師1841-2: 穂波川支流)(24年)
- ・飯塚市: 中の島芳雄橋～新飯塚橋間(24年・25年)、阿恵フルーツセンター付近(25年)
- ・宮若市: 犬鳴川河川公園(ヒガンバナは宮若市の花です)(24年)

川崎町安宅棚田の彼岸花まつり: 9月22日(日) (筑豊ゼミ HP 参照)

発行: NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター 第26期筑豊ゼミ

責任者: 第26期筑豊ゼミ運営委員長 菊川 清

編集者: 第26期筑豊ゼミ運営委員会事務局長 小林 道男

住所: 〒820-8555 飯塚市柏の森 11-6 近畿大学産業理工学部気付 第26期筑豊ゼミ

連絡先: 090-9485-5985 (菊川) 090-5746-4574 (小林)

e-mail: chair@chikuzemi.com (運営委員長) sec@chikuzemi.com (事務局長)